

平成24年度 国立江田島青少年交流の家教育事業

「中国ブロック青少年体験活動フォーラム in 江田島」 実施報告書

- 【趣 旨】 青少年の体験活動の全国的な普及を図るため、国立施設での実践事例を紹介するとともに、体験活動を実践する関係者が一堂に会し、青少年の体験活動を推進していくための実践的な研究協議や実践交流を図る機会を提供する。
- 【主 催】 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立江田島青少年交流の家
- 【共 催】 国立三瓶青少年交流の家・国立吉備青少年自然の家・国立山口徳地青少年自然の家
- 【後 援】 鳥取県教育委員会、島根県教育委員会、岡山県教育委員会、広島県教育委員会、山口県教育委員会、江田島市教育委員会、広島県PTA連合会
- 【期 日】 平成24年12月1日（土）～12月2日（日） 1泊2日
- 【会 場】 国立江田島青少年交流の家
- 【対 象】 青少年教育施設職員、教育行政関係者、学校教育関係者、青少年団体関係者、学校教員、民間教育団体関係者（自然学校等）、青少年教育や青少年の体験活動に興味・関心のある方
- 【参加者数】 165人（部分参加を含む。）

青少年教育施設職員（15人）、教育行政関係者（16人）、青少年団体関係者（5人）、学校教員（83人）、大学生・法人ボランティア（37人）、その他（9人）

広島県（141人）、島根県（10人）、岡山県（8人）、山口県（5人）、東京都（1人）

【企画・運営のポイント】

- （1）中国ブロック国立4施設で実行委員会を設置し、これまで行われた本事業の成果と課題をもとに、事業内容・講師を選定するなど、事業の企画・運営を行う。
- （2）本フォーラムの基盤となる体験活動の意義と有用性について理解を深めるため基調講演を行う。
- （3）国立3施設による学校長期宿泊体験活動における事例発表、及び実践交流を行い、取組を紹介する。
- （4）参加者間のネットワークを築くために、情報交換会等、交流の場を設定した。また、参加者相互の情報交換の場として、資料の展示コーナーをメイン会場に設置する。
- （5）長期宿泊体験活動に役立つプログラムの手法、安全管理を学ぶことができる参加体験型の分科会を行う。

【活動の実際】

(1) 内容

①基調講演

「学校教育における体験活動」

講師：文部科学省初等中等局教育課程課 教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官 杉田 洋 氏

②事例発表

〔事例1〕「自然体験活動におけるボランティアの育成」

発表者：国立三瓶青少年交流の家 企画指導専門職 長井 理 氏

〔事例2〕「学校長期自然体験活動『徳地ネイチャースクール』」

発表者：国立山口徳地青少年自然の家 企画指導専門職 山本 和宏 氏

〔事例3〕「『言葉』と『体験』をつなぐ」

発表者：広島県福山市立旭丘小学校 校長 枝廣 美恵子 氏, 教諭 笹尾 孝治 氏

国立吉備青少年自然の家 主任企画指導専門職 森安 洋博 氏

コーディネーター：文部科学省スポーツ・青少年局青少年課

青少年体験活動推進専門官 小野 保 氏

③「全国体験活動指導者認定委員会」説明

講師：公益財団法人ボーイスカウト日本連盟 事務局次長 小林 孝之助 氏

④情報交換会 取組発表 青年ボランティアグループ「カッターズ」

⑤分科会

〔第1分科会〕「海辺を活用した自然体験活動プログラムの手法」

講師：大柿自然環境体験学習交流館 館長 西原 直久 氏

〔第2分科会〕「人間関係づくりプログラムの有効性とその手法」

講師：玉川大学学術研究所 心の教育実践センター主任代理 難波 克己 氏

〔第3分科会〕「体験活動におけるリスクマネジメントについて」

講師：まなび工房 代表 堀江 清二 氏

(2) 日程

【第1日目】 12月1日(土)

12:00	13:30	14:00	15:30	15:45	17:30	18:00	18:30	21:00	22:00	22:30	
	受付	開会 行事	基調講演	休憩	事例発表	説明	OR	情報 交換会	入浴	就寝 準備	就寝

【第2日目】 12月2日(日)

6:40	7:10	7:20	9:00	12:00	13:00	14:15	14:45	15:00
	起床	朝の つどい	朝食 荷物移動	分科会 (午前の部)	昼食	分科会 (午後の部)	全体会	閉会 行事



基調講演
「学校教育における体験活動」



事例発表
「『言葉』と『体験』をつなぐ」



事例発表
「実践交流」



「全国体験活動指導者認定委員会」説明



情報交換会
「カッターズ」取組発表



資料展示コーナー
「国立吉備青少年自然の家」



第1分科会
「海辺を活用した自然体験活動
プログラムの手法」



第2分科会
「人間関係づくりプログラム
の有効性とその手法」



第3分科会
「体験活動における
リスクマネジメント」

【成果】

- (1) 基調講演では、体験活動に造詣の深い講師により具体的な事例を織り交ぜた興味深い話から、体験活動の意義や有用性を認識できた。また、「体験活動の意義や学校教育のあり方を職員に伝えたい。」といった参加者の感想からも分かるように、それらを普及させる有効な機会となった。
- (2) 事例発表では、施設の立場や学校の立場から長期宿泊体験活動の取組が発表され、長期宿泊体験活動の教育的効果並びにボランティアの有効性について再認識できた。
- (3) 情報交換会では、当施設で活動を行っている青年ボランティアグループ『カッターズ』の取組発表があり、他施設のボランティアや様々な立場の参加者との交流が深まり、有効な意見交換の場となった。
- (4) 分科会では、参加者自らが体験活動を行うことにより、体験活動の意義や教育的効果を体感することができた。
- (5) 第1分科会の講義では、「実際に海辺の生き物に触れて、新しい発見をすることができた。」「江田島での活動と自分たちの地域での活動をどのように結びつければいいのかヒントをもらった。」などの感想があり、本物の海の生物等を用いた体験活動により、プログラムの手法を効果的に学び、これからの活動に生かしたいという意欲が感じられた。
- (6) 第2分科会の講義では、「次に何がおこるか分からないワクワクする楽しさがあった。」「安心ゾーンから、変化・刺激のある活動をすることで成長するために大切なことを体験しながら学ぶことができた。」などの感想があり、様々な参加者とのふれあいやユーモア溢れる講師の話から、体験を通してリラックスしながら手法について学ぶことができた。

- (7) 第3分科会の講義では、「リスクは常になくならず、変化し続けるという言葉が印象に残りました。」「リスクをどうよい方向に生かし、個の能力を引き出していくかをみんなで考えていきたいと思います。」などの感想があり、リスクコントロールの視点から自分の職務や地域での活動に生かしたいといった意欲が感じられた。
- (8) フォーラム参加者へのアンケートによると、満足度は「満足」と「やや満足」を合わせて97.3%と高い評価を得ることができ、体験活動を広める有効な発信の場になった。

【今後の課題】

- 開催時期が、学校行事、学期末整理と重なり学校の教員の全日程参加が難しかった。実態に応じた開催日時を設定する必要がある。
- 各プログラムの時間配当、休憩時間の確保、生活時間の余裕など全体的に時間のゆとりがなかった。全体会の開始時間を午後から午前に繰り上げたり、内容の精選を図ったりする等、全体構成を見直す必要がある。
- 第1分科会の実習において、干潮時の潮位の関係から実際に海岸等での実習ができなかった。またそれを第1分科会の参加者に事前に周知徹底できなかった。
- 資料展示コーナーはコンパクトでよかったが、時間が取ればブース毎に訪問者と施設担当者との間で、説明やポスターセッションも含めた双方向のやりとりを設定していくとより効果的である。